

第1回 石岡市小中学校統合計画審議会 要旨

日 時 令和5年9月28日(木) 午後3時から午後5時
場 所 中央公民館 第3・4講座室
出席者 統合検討委員 17名
事務局 岩田教育長、吉澤部長、柴田次長、坂入課長、土師副参事、
雨貝課長補佐、櫻井係長、大場主事

次 第

1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 委員紹介
4. 会長、副会長の選任について
5. 議 事
 - (1) 統合再編計画の策定に関する諮問について
 - (2) 現状と今後のスケジュールについて
6. そ の 他
7. 閉 会

決定事項等

- ・八郷地区8校の統合に向けたスケジュールや方策の協議の実施
- ・地区懇談会を実施し、地域住民の意見を聞き、その上で審議会で最終的な方向性を示す。

会議内容

次第に沿って、4の議事に進む。

事務局：資料を基に小学校統合再編の進捗状況、現状の整理、協議事項を説明

(会長)

事務局からの説明を受け、何か質問等はあるか。

(委員)

八郷地区8校の統合に向けて段階を踏むかどうかと言っていたが、反対しているのは統合自体の反対である。それも一部の人たちだけである。やはり教育委員会が方針を出して進めないと、進まないのではないか。

(事務局)

庁内全体で調整し、統合に向けて早期に進めていきたい。

(委員)

統合となるとやはりバス問題とか、色々な問題が絡んでくる中で、資料が少ない気がする。統合時にどのぐらい費用がかかるのかという点は、資料がないと判断できない。参考資料として年間バス代がどう変わるのかなどのシミュレーションがあれば、こちらも検討できる。また、事前に資料をいただくと、読み込んだ上で、この会議に参加でき、話し合いを深くできる。せつかく時間と意見を集約するのであれば、やり方についてちょっと検討していただき、それを、答申として形にしていただければありがたい。

(事務局)

コスト面に関しては、現在整備を進めているところである。そういった点を次回までに整えて、事前に送付したいと思う。

(会長)

恋瀬・瓦会小に関してはどうか。

(事務局)

恋瀬瓦会については、昨年度まで地域の協議を進めていたが、地域の方から統合を2回するというのが、保護者の心情として、あまり望ましくないため、統合のステップを少なくしてほしいという声が強くあった。また、恋瀬と瓦会の令和5年度の生徒数を合わせても、各学年2学級以上という市が目指す学校の規模にならないというところもあり統合のメリットがあまり感じられないというような地域からの声をいただいている。そういった面も含め、統合のどのような手法やスペック等なども検討していただきたい。

(委員)

この審議会の中でも、瓦会と恋瀬の関係者が誰もいないから、誰も賛成も反対もできない。瓦会と恋瀬の関係だから言えない。瓦会・恋瀬の代表者が誰もいない審議会そのものにもまた問題がある。

(会長)

前回の統合計画審議会が出た、2段階統合の一つの理由は、まず複式を無くそうっていうのが最大の狙いだっただろう。財政の面など、いろいろ考えると、一気に統合はできない。それならば、八郷地区は統合を2段階にして、とにかく複式が解消できる方法を考えた。その中の一つに、恋瀬と瓦会を一緒にしていけば、複式問題はその時点では解消できる。

今回の場合は、先ほど事務局から説明があったように、2校を一緒にしても、文科省の言う1学年2クラス、合計12クラス以上の小学校にすることができない模様で、状況もどんどん変わってきて、そういった話になってきたのだと思うが、その時点では、一気に統合をするのはなかなか難しいだろうという思いで、答申をしたように思っている。ただ、今ここまで来たら、両地区のメンバーが入ればいいのか。

(事務局)

統合計画審議会委員の中に、統合に直接該当する学校の代表が含まれていない問題については、事務局でもできれば当事者となる代表の方を入れる形が、ベストだと考えているが、委員の構成が条例上限られているため、現在の委員にはそのまま審議いただきたいと思っている。それとはまた別に、統合計画審議会の方に当該地域関係者の生の声を伝えられる仕組みを、教育委員会でも今考えているところである。

(教育長)

統合計画審議会条例第6条の4に「会長は、必要があると認めるときは、委員以外のものを会議に出席させ、意見を聞くことができる。」とある。この後、各地区で説明会を開き、その意見等については、会議で直接聞くという形が良いのではないかと、検討しているところである。

(委員)

恋瀬小としては瓦会の受け入れに関しては良いというのが、多くの意見である。ただその他の追記事項のところでは、一緒になっても1クラスしかないため、2段階にせず、1回で終わらせた方が良いという意見も少数だがあった。そして、瓦会小は意見として統合は賛成だが、学級数の基準を満たしていない統合をするのであれば、2段階の最後の方に、行った方が良いという、瓦会の人は意見が多い。

(委員)

前の計画の時に感じたのは、地元の方の意見や財政的なことを考えると、統合を完了するのに20年以上かかってしまうだろうということだ。財政云々みたいなことになった場合

は、さらに行政とのかかわり合いが出てくるから、この会の意見が反映されるようになるには、さらに時間が必要だろう。そのため、できるところから粛々とやってくる必要がある。その基本となるのは、2学級以上、12学級以上が望ましいという考えである。それを考えたときに、2段階で対応することについて、恋瀬だけではなくて、他の地域も場合によっては、本当に入学生が少なく、数年後には同様なことが出てくる可能性がかなり強いと思われる。

それを踏まえたときに、八郷小学校統合となった際の、年度ごとの人数の推移を表に出していただけるとわかりやすいだろうと感じる。例えば、令和11年度を足してみても、表としてはかなり人数多いが、それほどではない。2・3クラスぐらいという感じである。これを前倒しでどの程度前倒しできるかっていうことになる、ある程度の年度ごとの推移が不明では、検討しにくい部分もある。だから、第2段階の八郷小学校になったときにどの程度の人数が入れるのか、出した方が分かりやすいのではないかと。

(委員)

今後11月から12月に地区懇談会を開いていくとのことだが、どういう状況で開くのか。地区懇談会でこの地区の方々に意見をもらう段取りなのか。それともこの審議会である程度意見を出して、懇談会にかけるのか。その順序がどちらに比重を置くのか。先ほどの感じだと、地区懇談会の皆さんの意見を集約し、審議会に報告するということだが、そうするとこの統合のあり方を決めるのは、地区懇談会で出た意見なのかとってしまう。どちらに比重置くのか。どういう段階で、地区懇談会にて説明をするのか。何の資料をもってこの懇談会へ臨むのか。

(事務局)

最終的な統合計画審議会での審議は、石岡市の方針の最終的な部分になるため、統合計画審議会での審議というのは、事務局として非常に重要なものと思っている。地区説明会の方とどちらが主かという話だが、統合計画書の中での最終決定を受けての答申という方に比重を置きたいと思っている。しかし、地域の方ご意見も教育委員会として開かなければいけないと感じている。事務局としては、地域の説明会の際に示しながら、8校ともに向けた意見を頂戴できればと考えている。

(教育長)

進捗状況、教育状況や今後の児童数の推移についても変化も含め、どの段階で地区の方々に説明をしようかということは議論していたところである。まずは審議会で状況の変化を説明した上で、先ほどのような、できるところからやっていくということもあるのではないかと意見等も踏まえて、地区にその状況を説明する。その上で地域の方々の意見をいただいて、また審議会の中でその意見を反映し、審議して、最終的な方向性を定め

ていきたい。そういう形で地区の懇談会を進めたいと考えている。

(委員)

基本的な方針は、8校同時の統合だが、ただし、柔軟に統合できるところから順序統合することも可能だという、大元の基本的な考えがあった中で、地区懇談会に臨むという理解でよろしいか。

(教育長)

問題ありません。また、前回の審議会では、小学校の全部が統合についてはあったが、先ほど申し上げた令和の日本型学校教育というところでは、小中一貫校という形での、持続可能な学校を作っていく必要があるのではないかとということも強く打ち出されている。そこも含めてこの審議会の中で審議をいただくことで、最終的にこんな学校作りたいたいというところをもっと明確になるのではないかと考えているので、このことについてもご意見を賜りたい。

(委員)

私も基本的な考えは、複式学級を直ちに解消する。本当にできるところから早くというその柔軟な対応については、私も賛成である。複式学級のメリットもあるだろうが、私はデメリットが大きいと思っている。その解消に向けて、教育委員会のスピード感をもった対応に期待したい。

(会長)

かすみがうら市では、義務教育学校がスタートしている。そういう先行した学校の色々な要素、情報を教育委員会の方からでも、或いは我々が個人的にでも集められれば、具体的な話ができるかと思う。

次回の開催が懇談会等の意見を取りまとめた後になるとあったが、今後の審議会で具体的なことも含めて、事務局からもっと示されてくるだろう。質問事項について、議論を深め、石岡の子供たちにとってよりよい教育環境ができるように、答申書をまとめたい。

終了時刻 午後4時30分